



発行所
全国曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝
2-5-2 曹洞宗宗務庁内
発行責任者 木南広峰
TEL.03-3454-5417

青年僧侶のエネルギーを結集しよう
社会的価値ある活動をしよう
青年僧侶の自覚を促そう
地域における活動の連携を深めよう



木南広峰会長

謹賀新年



謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。爽やかな新春を迎え、会員各位におかれましては益々御清祥の事と拝察、大慶至極に存じます。

早いもので私が全曹青第九期を執行してまもなく二年が過ぎ去ろうとしております。新年を迎える度に、一年という時の流れの早さを痛感せざるを得ません。「徒に過す月日は多かれど……」この宗祖の御教えが深く心に刻まれる昨今であります。

振り返ってみます。全曹青第九期は「慶事としての仏教」をアピールする為に「花まつり」「仏前結婚のすすめ」を中心に活動を重ね、さらに会則の一部見直し、講師一覧パートIIの作成、全国ソフトボール大会開催、未加盟団体の嵌入、全曹青独自の会員リストの作成、通信発行、禅文化学林の実施と役員一同精一杯努力して参りました。微力ではありましたが、その努力が明日につながる努力であったと第九期役員一同自負しております。

全曹青は今二十周年に向けて新しい一歩を踏み出そうとしております。新年にあたり会員諸兄にはなお一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

末尾と成りましたが、各位の法身堅固、福寿無量を祈念申し上げます。年頭の御挨拶に替えさせていただきます。

合掌

目次

年頭挨拶	1
東北曹青宮城大会・関東連絡協議会大会	2
東海曹青東海大会	3
中国曹青岡山大会・四国大会	4

全国各地で曹青の大会開催

11月5日6日	東北曹青宮城大会
11月6日	四国大会
11月16日17日	東海曹青東海大会（愛知第3）
11月18日	関東連絡協議会大会
11月18日19日	中国曹青岡山大会
11月20日	京都曹青30周年大会

破草鞋

▽ミスタープロ野球、あの長島茂雄氏がグラウンドに返ってきた。十二年ぶりである。巨人は嫌いでも長島さんは好きだという人も多いだろう。

彼の魅力はどこにあるのだろうか。考えた時、その一つに「子供のような天真爛漫な性格」があるように思う。大部分の大人が遠い昔に捨てて来てしまった少年のような純粋さが人を引きつけるのである。あれほどの大選手でありながら、ミスターという称号で呼ばれるほど尊敬されていながら、私共と同じ、いや私共以上の失敗を平気でする。そのエピソードの多さは誰にもひけを取らないであろう。自分の車のカギがないと大騒ぎをして皆を心配させたあげく、その日は自分の車で来なかったことを後で思い出したり、信じられないような長い自然薯をもらって「こんなに長い山芋を折らないで掘るのは大変なんですよ」と言われて「そうですか」と答えながらも、車のトランクに入らないと知ったとたんポキンと二つに折ってしまった……しかしそれらの行為を誰一人として憎いと思う人はいないのです。

曹青に必要なことは正にこの長島茂雄氏に代表される行動と思考ではないだろうか。引かれた線路の上を何の疑問も持たないで、ただただ走るのではなく、四十才以下だから許される「少年のような純粋さ」と「失敗を恐れない心」そして「万人から愛される性格」をもって明日の宗門を担うのは曹青以外にないであろう。

全曹青は間もなく第十期即ち二十周年を迎える。人間で言えば成人式である。長島茂雄氏の根底に流れる「情熱」は私共のそれと同じであるはずだ。燃せよ曹青の情熱、曹青の熱き心。今がその時だ。

第17回東北曹洞宗青年会宮城大会

緑 in 禅

～いのちある自然と共に～

「宗次郎コンサート」を公演 カンボジアに小学校二棟を建設！ 宮城曹青会長 早坂文明

時恰も、米国ではクリントン氏が大統領選に若さの大勝利を果した翌日の十一月五日、みちのく仙台には若き情熱溢れる青年宗侶が、東北各地より続々つめかけた。「第十七回東北地区曹洞宗青年会東北地方集會宮城大会」の開催である。今年には宮城県曹洞宗青年会が主管となり、テーマとして、「緑in.禅」のいのちある自然と共にを掲げる。宮城曹青活動の中心である「緑in.禅」の「東南アジア難民支援のボランティア活動」にみられる「大衆教化」を継承しつつ、より現代的な視点から大衆へのアピールを目指す。即ち、「昨今の環境や難民の問題を考える時、共に生きる」というお互いの思いやりの心なくして、道は拓けないという理解が必要だから。

そこで、今大会を単に青年宗侶の研修親睦だけに終らせるのではなく、広く一般の方々と共に、自然の素晴らしさや思いやりを感じられる心豊かな時間を過ごせるようにと、「世界的なオカリナ奏者、宗次郎のコンサート」を企画。コンサートの収益金等で、曹洞宗国際ボランティア会を通じて、カンボジアに小学校を建設し、周囲には植林を行い、環境モデル地区を形成して、難民の定住促進を支援しようということになる。

一年程前から宗次郎事務所との出演交渉、会場確保等不慣れな準備に明暮れ、前途の多難さを思い知らされる。しかし、大会に先駆け、コンサートのPRも兼ねて、托鉢等の募金活動を行ったところ、思わぬ反響を呼び、各マスコミにも様々な形で十数回に亘り、報道される等、今日的な問題提起となった。お陰で相当額の宣伝費に匹敵する程の効果があり、安くはないチケットも売行を伸ばした。



▲基調講演 内藤俊彦先生

さて、大会は仙台サンブラザホテルに始まり、午後二時開会式。記念式典に始まり、東北大学理学博士内藤俊彦先生の「生活と自然」と題する基調講演が行なわれる。自然に対する東洋的な思想特に仏教の思想に合った生活を送ることによって、自然環境はよりよく継承されるという内容で、我々仏教者の自然に対する責任の重さを痛感させられるものがあった。



▲宗次郎コンサート

午後六時より、会場であるホテルと一体となっている東北最大規模の円形ホール「仙台サンブラザホール」にて、「宗次郎コンサート」の開催。宗次郎のオカリナといえは、自然賛歌のイメージがあるように、今回も「風」をテーマにして、舞台装置、照明に趣向を凝らし、ドラマやシンセサイザー等に加えて、アコーディオンを取り入れたり、意欲的なステージを見せてくれた。更に、驚かされたのは、普段は歌わない宗次郎が、初めて自作の歌を披露したことである。このようにして、ステージも聴衆も盛り上がり、アンコールでは最高潮を迎え、予定時間をオーバーする程であった。終了後、ロビーに置いた「カンボジアに小学校建設」の募金箱が一杯になったのは言うまでもないことである。



▲SVA有馬氏に目録贈呈

は、いわゆるあのPKOに勝るとも劣らない貢献に結びつくものであるという。その後、今大会の大きな目的であったカンボジアに小学校建設寄付の目録が、宮城曹青より、有馬氏に贈呈された。



アンコールの余韻に酔いながら、再び会場をホテルに移し、アルコールに酔い、東北曹青の親睦を深めたことは、これ又言うまでもないことである。翌日も早朝より、今大会のテーマを踏まえての、「緑in.禅」布教発表会が行われた。各単位曹青の代表が一名づつ登壇し、各地域に根差した観点からの、自然と共に生きる姿勢を布行する。テーマそのものは、かなり大きなものであったが、やはり、身近かな第一歩から我々自身が何かを手がけることが、緑に対する思いやりであり、禅の実践であることを異口同音に発言し、質疑応答も行われた。

その後、閉会式に移り、「我々は情熱ある求道心と国境なき慈悲心を以って、二十一世紀へ向う」ことを決議し、次期開催県である青森曹青会長へ、伝統の絡子が伝達され散会した。東北曹青、宮城曹青はじめ、各諸先輩方が携わってこられたボランティア活動の足跡あつて、今日カンボジアに和平の兆が見えている。その年に、「宮城大会」の開催を迎え、小学校建設の要請をいただき、大きな巡り合わせを感じる。自然に対する関心も高まっている昨今、「宗次郎のオカリナ」との出会いも然りといえる。

曹青の心意気を示すべく結集した一五〇名を超える参加者並びに、一、五〇〇名近いコンサート入場者、数千名に及ぶ募金協力者の思いやりは、予想以上の慈愛の風となつてカンボジアに小学校を二棟分の予定が二棟分も建設寄付できた。巡り合つて、「東北はひとつ」となった今、「地球はひとつ」へと巡り合いの風を伝えていく時であろう。

関東連絡協議会 親善ソフトボール大会

平成四年十一月十八日、午前十時関東連絡協議会の親善ソフトボール大会が快晴のもと盛大に開催された。今年の開催県は山梨県曹洞宗青年会の協力により甲府市の小瀬スポーツ公園内球技場にて、神奈川、埼玉、栃木、群馬、千葉、茨城、山梨二チームにより、トーナメント式で対戦されました。各曹青個性豊かなチーム名で、ユニフォームをそろえるなど意気込みもさながら珍プレー好プレー、ホームラン続出と云うエキサイトぶりでした。特に埼玉チームと初出場の神奈川チームが余裕にて決勝に進み、埼玉チームが優勝しました。三位には茨城チームが健闘し入賞しました。無事に全試



合が終了し、場所を石和温泉に移動し表彰式並びに懇親会がなごやかに行われお互いの健闘を讃え合い修行時代の思い出や近況報告に話は絶えず夜はふけ翌日解散となりました。最後になりましたが、通信の一面をお借り致しまして主催県の山梨県曹洞宗青年会の皆様御苦勞様でした。深く感謝申し上げます。

茨城県曹洞宗青年会 事務局 野口謙治

心にやすらぎを……

四字禅語

「四字禅語」全国曹洞宗青年会著 B6判 定価1300円(税込)

曹洞宗のしきたりと心得

天龍寺

「曹洞宗のしきたりと心得」全国曹洞宗青年会監修 B6判 定価1100円(税込)

曹洞宗

●五〇冊以上ご注文の方には名人札をサービス致します。詳細は弊社事業企画室へ直接お問い合わせください。

「カセットブック・曹洞宗」 全国曹洞宗青年会著 新書判 定価1500円(税込)

〒162 東京都新宿区井天町43 電話 03-3267-6821 事業企画室(直通) 電話 03-3267-6824
FAX 03-3235-6672 振替 東京 2-60072 FAX 03-3235-6672

株 池田書店

第16回 東海曹洞宗青年会

— 東海大会 —

愛知三曹青事務局 畔柳尚孝



▲開会宣言

東海管区曹洞宗青年会（河村英樹会長）の東海大会が、去る平成四年十一月十六日、十七日の両日にわたり、愛三曹青年（渡部貫道会長）の主管で会員の一致協力のもと、知多半島の根元にあたります東海市（東海シティホテル）に於て開催されました。



▲ヘレン・ケラー女史に贈る人形と共に

中村先生のお母さんは、二歳で両手、両足を失いながらも人生を切り開き、「日本のヘレンケラー」と呼ばれた岐阜県高山市出身の中村久子さん（一八九七—一九六八年）であり、その生きざまは広く知られているところであります。近年はTV、新聞、あるいは各方面の小冊子などで紹介されています。中村久子さんは凍傷による突発性脱疽（だっそ）で両腕はひじ関節から、両足はひざ関節からそれぞれ切断され、口を使つての裁縫、編み物などを披露するこ



▲中村富子先生の講演

大会は、全曹青会長、愛知第三曹務所長老師、各主事老師を来賓に迎え、百数十名の東海各曹青会々員の御集集をいただき、講演会、懇親会、そしてソフトボール大会と和やかな中にも各々が自己の研鑽につながる糧を得られる大会となりました。

とで自立し、昭和十二年、四十歳の時に尙面したヘレンケラー女史から「私より不幸な人、そして私より偉大な人」とたたえられました。結婚、出産、夫との死別などを乗り越え、日本の「福祉のシンボル」として全国の障害者の皆さんに、光と希望を与えられた方でありました。我々の知る限りの中村久子さんは、大病におかされ、四肢切断という我々の想像を絶する障害を背負われ、その為に苦難の道程を歩まなければならなかったということ以外、どのような苦勞を体験されたか、全く知るよしもありませんでした。

中村先生は終始柔和な表情で切々と語られました。とくに母への想いは強い情念がこめられ、また娘として母に尽せなかつたことを悔いて、子として相済まなかつたことであつたという中村先生のところが、私達の心に深い印象を残しました。そして苦難多き時代に、人生への力強い信念と勇気の子供らに与え続けた母の真心、さらに生きてあることの喜び、生きることの素晴らしさ、人間であることの尊さが判つたならば、生まれてきたことをとどんなに喜び、感謝しなければならぬか、そしてその生命を大切に、生まれたことの意義を全うするために、完全な人生を生き抜き、その生命の全能力を遺憾なく発揮することが、すべての親の願いであると示されました。「生きる」といったことを必死で体得させる、忍耐と努力を欠さない母親こそ、愛が語られるのでしょうか。

中村先生にとりまして、久子さんの生涯は、ただ母であることにとどまらずひとりの女性として、人間として、この世で再び相見ることのない、見事な「女の一生」であつたことを、ご自身が証明されたのであります。最後に、人間である私達は、親の慈愛の袖につつまれて、成長させていたたいているのだから、どうして「御恩」を忘れてよいものか。そこに感謝の心がおのずから湧き出てこなければ、人としての値打ちも尊さも無いように思われると指摘され「御恩を知る」ことこそが、まさしく広大無辺な「佛心」そのものであることを示されました。

現代社会は、心の病いが蔓延しているばかりではなく、災害は何時私達を襲うかわかりません。突然牙をむき出して来ます。そして容赦もしません。人生の幸福を願う心とは遠く、病魔に犯されることもあるわけですね。特に弱い立場の子供達、老人達にとってその心配は多いものと言えましょう。

その真剣なプレーぶり、個性あふれるユニフォーム姿は公園を散策する人達の足をとめる程であつた。試合はトーナメント方式により行なわれ、接戦のすえ静岡第三同志会が優勝、準優勝は静岡第四B、第三位に岐阜曹青となりました。珍プレー好プレーに抱腹絶倒したりで楽しい一日であつた。次回開催地静岡での再会を誓いあつて午後三時、第十六回東海大会を閉会した。



▲優勝の静岡第三同志会

十一月十七日、ホテルの会場より望む丘陵地、大池公園球場に於て、ソフトボール大会が実施されました。一点の曇もなく晩秋、木々の黄葉に囲まれて、午前九時入場行進が賑やか始まり、熱戦の火ぶたが切つておとされた。

中村先生は、我々を含め現在健康である恵まれた存在である者に、大きな警鐘を鳴らされたと理解すべきなのだろうか。この混迷の時代にあつて、生きるとは人を愛するとは、どんな意味をもつのだろうか。苦闘の過去をもち、人生の悲しみを見つめてきた母、久子さんの心に残る出来事などを通して、生きてあることの意味を自ら問い、静かに語られた、貴重な体験と透徹した中村先生の眼に、裏打ちされた味わい深い講演でありました。

宿泊・婚礼・法事のご利用に…。

交通

- 地下鉄 都営三田線、芝公園駅より徒歩2分
- 地下鉄 都営浅草線、大門駅より徒歩7分
- 羽田空港より車で25分
- JR浜松町駅より車で3分
- 都バス芝園橋、金杉橋より徒歩3分



東京グランドホテル

Tokyo Grand Hotel

〒105 東京都港区芝2-5-3 ☎ 03(3454)0311(代)

FAX ☎ 03(3454)1022

墓石 記念碑

静岡県経済連指定
造園・資材・灯籠
建築石材張石工事



石のひろが (有)平賀石材工業所

本店工場 静岡県磐田郡佐久間町川合922 ☎(0539)65-1232代 FAX(0539)65-0921

浜北営業所 浜北市於呂1377の5 ☎(05358)8-7503

豊橋支店 豊橋市羽根井西町12の13 ☎(0532)32-5730

豊川インター支店 豊川市麻生田町中通り44の4 ☎(05338)4-7854

静岡ペット霊園 静岡市平沢山王50番地 ☎(054)263-7161

袋井インター支店 袋井市山科3256-1 ☎(0538)43-0510

第15回中国曹洞宗青年会岡山大会

わたしを旅する

『余乗について』

—唯識を中心として— So-Young Community of Okayama

岡山曹青事務局 越海暢芳



第十五回中国曹洞宗青年会岡山大会は、十一月十八、十九日、総社市、岡山厚生年金休暇センターにて、中国五県より、道を求める善友七十余名が集い、静かな中にも、週に難き佛法に値うありがたさを感じながら開催されました。

開会にあたって、五十嵐中国曹青会長から、私達青年僧は、自らの足もとを常に、毎日のありようを掘り下げた生活をしなければならぬと述べられ、全曹青会長木南師からは、曹青の原動力は、若さと情熱ですという力強い言葉を頂きました。

現在、私達が向かわなければならぬ道は、さまざまな方面に広がっています。しかしながら、ブツダの説かれる『自己をたずねる』こと、そして道元禪師の示される『自己をならう』ことに還らなければ、歩みを進めることが出来ないのではないだろうかというところから、今回のテーマを「わたしを旅する」とし、講師には、駒澤大学講師・薬師寺唯識学寮講師である太田久紀老師をお迎えして、『余乗について』—唯識を中心として—という形で講演をお願いした。

講演は、まず宗乗と教学について、衛藤即応先生の「私は禪に参究して、……一般佛教学の研究に進まざるを得なく……」という一般研究者の如く……学問的研究といふよりは寧ろ私には学修といふ方が適当であった(『宗祖としての道元禪師』)という文を引用され、佛教は、参究であり、仏法に宗乗、禅学、仏教学の区別などなく、仏教はただ、一人の人間がいかに生きるかを問うものであるのだから、宗乗も余乗も、一個の生きる人間のものとして見ていかなければ道を見失ってしまう。宗乗、余乗を区別するのでなく、上求菩提下化衆生の上求菩提として、自己の問題、人間の問題ということと考へ直してもいいのではないかと、宗乗、余乗というのはそういう見方にそったものであったと思うと話され、参究の一つとして唯識を見ていきたいと言葉を続けられた。

教学とは、言葉で説明し、言葉で理解し、論理的に物事を考え、客観化することを目として行っている。こういう自己のなっていない方、方便をも忘れてはいけないのではないだろうか。

唯識は、言葉のむなしさを説くのが一つの大きなテーマ、言葉は約束ごとにすぎないということ徹底に言うのが唯識。しかし言葉でもって法を説く。唯識は、自己とは何かの問いに答えるだけが言葉の持つ意味だという位置づけをする。教学とは、言葉を通して自己参究をすると考えてほしい。

教学の中で、唯識は三乗を説くので一乗から見ると下のように見られているけれど、三乗も一乗も違わない。現実には足をつけるのが唯識、これは道元禪師においても重なりあう。「生死去来、是生死去来」という道元禪師の言葉を聞いても分るように、普遍的真理の世界を背後に持ちながら現実を現実と見、現実こそ人生がある。そのままの自己に對面するのだと見ておられる。

では、唯識において現実の自己をどのように分析していくのかということ、成唯識論を中心として親しく言葉を尽く語られました。そして最後に、繰り返されるように、己とは何か、自己とは何かをどの教学も示している。客観化された人間の姿を見て宗乗を深めて頂きたい。人間を唯識はこのように分析し、追求している。仏道をならうのに役立つ客観化合理的なものとしてご理解頂ければ私の望みは達せられましたという言葉で終わられました。

老師の深い求道の姿は、私達自らの求道の姿を見つめさせずにはおかれませんでした。今回のテーマである「わたしを旅する」という正にその通りの会にして頂いたことを深く感謝いたします。

岡山曹青は、第五回大会を担当したものの第十一回大会では担当することが出来ませんでした。それは実質的な活動が停止し大会を担当できる状態ではすでになかったからです。

岡山曹青をこのままなくしてしまつてはいけないという県内曹青O・B、中国四県の青年会の励ましと、平成二年四月に会員を新しく募集し正会員十七名で活動を再開しました。再開したとはいえ、新会員からの会費と添乗を合わせて十四万円でのスタート、その中から全曹青へ一万七千円、中国曹青へ一万円の会費を納めて残り十一万三千円。何をしようか、何が出来るから始まり、とりあえず毎月一回とにかく集まって法式研修をやらう。歳末助け合いの鉢鉢をやらうというところで何とか動きはじめました。

そして活動再開して三年目の平成四年正会員二十二名と、県内寺院の御理解とあたたかい励ましで、賛助会員四十名となり、中国曹青大会を何とか担当することが出来ました。



▲太田久紀老師

拙い岡山曹青が三年目で大会を担当出来たのは、県内曹青O・B、県内寺院の方々はもちろんの事、中国四県の青年会の皆様のあたたかい励ましと御協力によるものに他なりません。この大会を開催することで私達岡山曹青は、中国曹青の方々に感謝するとともに、やっと中国曹青の仲間になれたな、共に歩みはじめることが出来るなという思いを持つことが出来ました。

岡山曹青がまた活動を停止しないように足もとを見つめながら精進していくことを念じております。

「禅をきく会」

於 愛媛県松山市

四国曹青 仙井 恵久

四国地区曹洞宗青年会は、去る十一月六日、愛媛県松山市の総合コミュニティセンター「キャメリアホール」において「第一八回禅をきく会」が開催された。昨年は日程の調整と講師の選定が決まらず、講演は中止したので中野会長に変わってからは初めての講演である。一昨年末では南海放送と共催していたが、今年は、教化センターと共催し、主催は、宗務庁となった。

前日の五日にホテル春日園に於て綿密な打ち合わせと会員相互の親睦を深めるために懇親会を行った。

最後に、繰り返すようですが、第十五回中国曹洞宗青年会岡山大会を、自らの県の大会のように見つけ協力して下さい。山口・いずも・石見・取島・広島曹青の会長をはじめ役員の方々に並に全曹青にはお礼の言葉を尽くしても尽くしきれません。中国曹青の一員として共に歩めることを嬉しくもありがたく思っております。ありがとうございます。



▲中野宣明会長

当日は、心配された天気も晴天となり午前九時より準備を行い、後は、十二時の受付を待つのみとなった。今回は、チケットを販売してないので、聴衆者が何人来るかまったくわからない点が不安であった。しかし地元松山の寺院の努力により、まあまあの人々が、聴衆に来てくれた。中野宣明会長の挨拶後一時より映画「食」が、放映された。これは愛媛県新居浜市の専門僧堂である瑞応寺の如常の生活が、取られており、道元禪師の典座教訓の解説がナレーションに入っており、現代における飽食の実態を鋭く批判していた。

一時五十分より島崎光雄先生の講演「白己に遇う」が始まった。島崎老師は、一九二四年北海道に生まれ、現在長林寺の住職で、北海道管区教化センター統監、社会福祉協議会評議員、保護司をされている。主な著書には、「われはおがみや」、「雲水心を相統する」、「慈悲のすがた」がある。島崎老師は、五欲の話をされ最初に財欲について述べられ、色欲、食欲、名譽欲、睡眠欲と順に話され、いづれの欲もなくてはならないものだが、強過ぎても失敗を招くものであり中庸を歩まなくてはならないと説明された。

一時間の講演の後、青年僧六名によるボランティア資金集めの為の鉢鉢が場内で行われた。聴衆者のよき理解があり、沢山の募金が集まった。

その後、島崎老師がステージの中央で坐禅をされ、聴衆者もいす坐禅を十五分行った。坐禅中に詠讃歌が唱えられ、非常に厳粛な雰囲気であった。大開静が鳴り終わり、ボランティア資金の贈呈を行い閉会式となった。聴衆者が帰る時に、祈祷太鼓を打ち送り出した。どの人の顔も満足気な表情だった。

ロビーに展示してあった瑞応寺の雲水が写っているパネルなどの後片付けをし、第八回禅をきく会は、無事に終了した。時代を担う青年僧たちは、次回の再会を強く約束し解散していったのである。



▲講演する島崎老師

法要の際にご本堂などで

曹洞宗日課経大全 1冊につき ¥500 (100冊以上 ¥480)

修證義ミニ本 1冊につき ¥80 (100冊以上 ¥70)

妙法蓮華経 ●安楽品 ●持身品 ●持身品 ●持身品

別紙金剛仕上げ表紙(3冊セット) ¥7,000
洋紙(きぬもみ)仕上げ表紙(3冊セット) ¥6,000

●お申し込みは—(株)タイキ 平538 大阪市鶴見区今津中3丁目9番6号 TEL.(06)969-7191(代) FAX.(06)969-7194